

活動名 亶理プロジェクト「TEAM わっこう」	団体名	学生ボランティア団体 OPERATION つながり 震災復興ボランティア事業部
	地域	広島県東広島市
	代表者	震災復興ボランティア事業部 副部長 富吉 亶哉
	支援金額	30 万円

活動概要

2013 年度より開始した「亶理プロジェクト」の活動を 2014 年度も引き続き展開した。本プロジェクトは宮城県亶理郡亶理町の旧館仮設住宅(以下:旧館仮設)への支援活動を地元・亶理高校の生徒(以下:亶理高校生)に引き継ぎ、現地主導の仮設住宅支援活動を促進することを目的としたものである。2014 年度は、当団体のメンバーで構成される派遣チームを計 5 回、宮城県亶理郡亶理町に派遣した。なお、2014 年の活動で当団体が目指していた亶理高校生への仮設住宅支援活動の引き継ぎが完了したため、2014 年度をもって、本プロジェクトは終了した。

以下に各派遣の活動概要について記す。

亶理プロジェクト第 6 次派遣 ①亶理高校生とのミーティング ②放課後チャレンジ ③旧館仮設での世帯訪問 ④亶理町荒浜地区状況確認 ⑤亶理町役場・亶理町社会福祉協議会での聞き取り ⑥旧館仮設管理人とのミーティング	亶理プロジェクト第 8 次派遣 ①旧館仮設での世帯訪問 ②旧館仮設管理人とのミーティング	亶理プロジェクト第 10 次派遣 ①亶理高校教員とのミーティング ②旧館仮設での世帯訪問 ③旧館仮設での思い出振り返り交流会 ④災害公営住宅等訪問 ⑤亶理高校 OB・OG 懇親会 ⑥亶理高校生とのスポーツ大会 ⑦亶理町荒浜地区状況確認
亶理プロジェクト第 7 次派遣 ①亶理高校生との交流会、ミーティング ②旧館仮設でのランチ交流会 ③旧館仮設での世帯訪問 ④亶理町荒浜地区状況確認 ⑤旧館仮設管理人とのミーティング	亶理プロジェクト第 9 次派遣 ①旧館仮設での世帯訪問 ②旧館仮設での空き部屋掃除 ③NHK「鶴瓶の家族に乾杯」収録 ④災害公営住宅訪問 ⑤亶理町荒浜地区状況確認 ⑥亶理高校生とのミーティング	

◆実施時期

- 活動期間 2014 年 4 月 1 日～2015 年 3 月 31 日
- 亶理プロジェクト第 6 次派遣 2014 年 5 月 30 日～6 月 2 日
- 亶理プロジェクト第 7 次派遣 2014 年 8 月 8 日～8 月 11 日
- 亶理プロジェクト第 8 次派遣 2014 年 10 月 24 日～10 月 27 日
- 亶理プロジェクト第 9 次派遣 2015 年 1 月 17 日～1 月 18 日
- 亶理プロジェクト第 10 次派遣 2015 年 3 月 13 日～3 月 15 日

◆参加人数

- 当団体のメンバー 延べ 18 名
- 亶理高校生 延べ 50 名
- 旧館仮設の住民・元住民 延べ 100 名

参加総人員:168 名



高校生ミーティング(第 6 次派遣)
旧館仮設住宅のためにこれから何ができるのか? 当団体のメンバーと亶理高校生が真剣に話し合います。



足湯マッサージ(第 9 次派遣)
亶理高校生が住民の方に足湯マッサージを振る舞う。亶理高校生による足湯マッサージは毎回好評です。この日は「鶴瓶の家族に乾杯」の取材も受けました。



交流会(第10次派遣)

思い出振り返り交流会のランチにて亶理高校生が住民にさくらあんぱんを振る舞い、住民の方から大好評でした。



思い出ムービー上映(第10次派遣)

これまでの活動を振り返る思い出ムービーの上映。懐かしい写真が流れてくるたびに、住民の方は大盛り上がりでした。

◆実施に伴う効果

当団体は、2年にわたる本プロジェクトの活動で、亶理高校生とともに活動し、段階的に亶理高校生への活動の引き継ぎを重視して行ってきた。その結果、亶理高校生が自発的に仮設住宅支援活動を行うようになった。また、亶理高校生の話し合いで、これまで本プロジェクトで活動を行ってきた旧館仮設だけではなく、旧館仮設とは別に亶理町内に存在する館南仮設でも活動することとなった。実際に、2015年5月上旬には館南仮設、5月下旬には旧館仮設で世帯訪問などのイベントを既に開催している。このように、本プロジェクトの活動により、亶理高校生が主体的に地元の仮設住宅支援活動を行うようになったことが効果として挙げられる。

◆苦勞した点

本プロジェクトでの亶理高校生の仮設住宅支援活動を高校側に認めてもらい、地元での仮設住宅支援を頑張ろうとしている生徒を高校がバックアップするような環境をつくることに非常に苦勞した。

本プロジェクトでの亶理高校生の活動は当初より学校からは課外活動と認められていたものの、活動に関心を示す教員が少なく、学校としてバックアップをする環境が整っていなかった。そのため、当団体が仮設住宅での活動を高校生に引き継いだ後、金銭的な理由などから亶理高校生が継続的に仮設住宅支援活動を行うことができなくなるのではないかと懸念されていた。

しかし、当団体が高校側へ地道な働きかけを継続して行ってきたということ、また、NHK「鶴瓶の家族に乾杯」で全国に亶理高校生の活動の様子が放送されたことなどをきっかけに、高校側の活動に対する理解が深まり、その後、当団体と学校長をはじめ、教頭や生徒指導の教員との話し合いにより、仮設住宅支援活動を学校としてバックアップすることが決定し、亶理高校生が継続的に活動を行う環境を整えることができた。

◆今後の課題・発展の方向性

当団体は目標としていた、亶理高校生への仮設住宅支援活動の「引き継ぎ」が完了したと判断し、本プロジェクトは2014年度をもって終了となった。今後、本プロジェクトの活動として当団体のメンバーを亶理町へ派遣することはない。しかし、当団体はこれからも広島から亶理高校生の活動を見守り、必要があれば適宜アドバイス等を行っていく予定である。また、活動を通して私たちが関わった旧館仮設の住民とは、今後も手紙や電話連絡などを取り合い、人としての関係を続けていく。

◆活動を終えての感想・意見等

3年間にわたる厚いご支援に心より感謝いたします。震災が発生してから丸4年(当団体が発足してから丸4年)が経過しましたが、これまでの私たちの活動を振り返ると、いつも貴財団に支えていただいていたことを強く感じます。今回の「亶理プロジェクト」では、2年にわたる活動の末、亶理高校生への「引き継ぎ」という、はっきりとした成果を残すことができたのではないかと感じています。本プロジェクトは終了いたしました。これからも当団体は東北に思いを寄せながら、広島・東北で活動を行って参ります。長らくのご支援、本当にありがとうございました。